公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信　2017年1月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆探鳥会訪問記
（特集・会員を増やすための探鳥会③）・・・1
◆私たちの探鳥会自慢・・・・・・・・・・・14
「呉羽山 ゴミ取り（鳥）探鳥会」
◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・・15
（2016年11月分）
◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・17
・2017年バードウィーク「全国一斉探鳥会」の情報をお寄せください
・『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み
◆今月の購読数・・・・・・・・・・・・・・20
◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・・21
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・21

◆探鳥会訪問記（特集・会員を増やすための探鳥会③）

今月号では12月3日から17日に4支部6か所で開催された「会員を増やすための探鳥会」（表1）の様子についてご報告いたします。

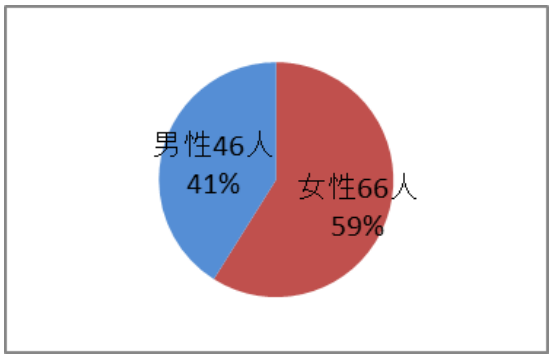
表1.

開催日		支部名	開催場所
No10	2016/12/3(土)	奥多摩支部	昭和記念公園
No11		栃木	鳥野目河川公園
No12		千葉県	千葉公園
No13	2016/12/10(土)	千葉県	柏の葉公園
No14	2016/12/11(日)	埼玉	大宮公園
No15	2016/12/17(土)	栃木	栃木県中央公園

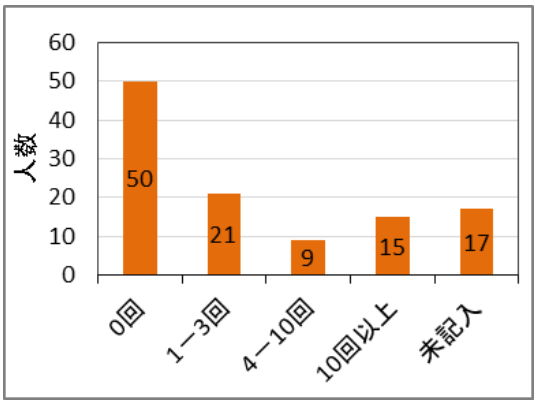
「はじめてみませんか、バードウォッチング」ｉｎ昭和記念公園
（奥多摩支部）

【日時】2016 年 12 月３日（土）９時 00 分～12 時 00 分
【天候】晴れ
【場所】国営昭和記念公園（東京都立川市）
【参加人数】112 名（うち一般参加者 102 名）
【リーダー】21 名
【お試し入会】９名（一般参加者のうち約 9%）
【広報】
＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook
＜メール＞一斉メール送信（10/3、６全国 42,325 名に送信）
＜チラシ＞探鳥会のご案内（10/20 から全国約 50,000 名に送付）
＜新聞＞朝日新聞：アサココ（12/1）、街プレ（11/24）、読売新聞：多摩版、
西多摩新聞

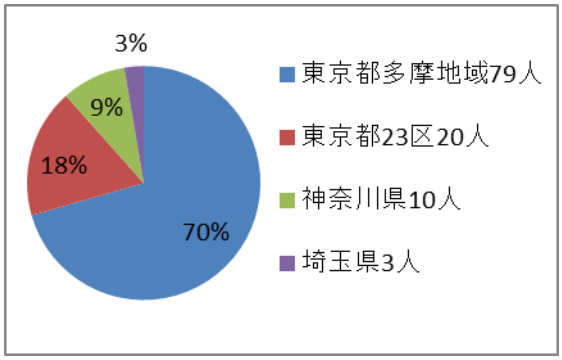
【性別】



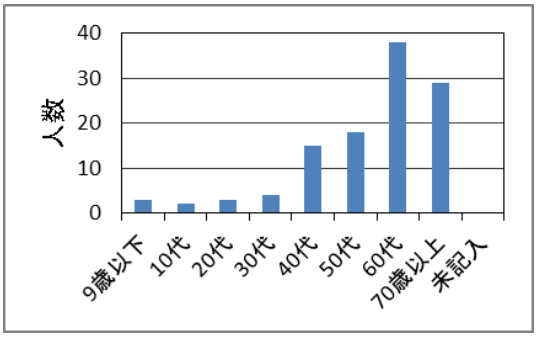
【バードウォッチングの経験回数】



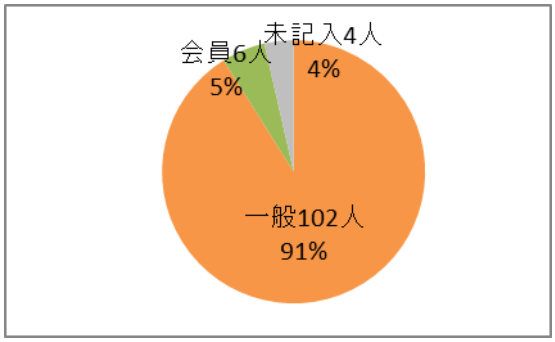
【お住まい】



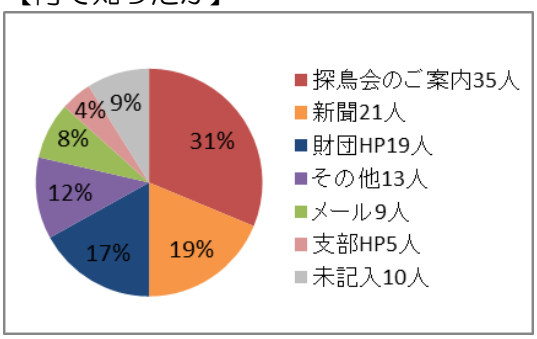
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会の様子

国営昭和記念公園での会員を増やすための探鳥会は、今年で3回目を迎え、例年 100 名を越える参加があります。探鳥会開催当日は、12 月に入ったというのに、朝から気温の高い日でした。リーダーたちは開始1時間前に集合し、受付の準備を行います。100 名を超える参加が見込まれていたため、受付名簿を6か所設置し、当日資料の配布と保険料の回収を行いました。1カ所あたり 10 数名の受付なので、大きな混乱もありませんでした。

112 名を 5 つのグループに分け、探鳥会がスタートします。コースは小さな池を回るコースで、初心者でも見つけやすい水鳥を中心に観察を始めました。小さな池に 100 名を超える参加者がいるので、自分のグループがどこにいるのか確認しにくい場面もありました。しかし、最初にグループ分けをした際に、1～5番までの番号でグループ分けをしており、また、移動する際はリーダーがグループ番号の書かれたシートを掲げながら「1番のグループそろそろ移動しますよ～」などと声をかけたため、参加者に混乱は見られませんでした。

▲池のほとりで水鳥を観察

解散は、100 名を超える人数を集めるのが大変なので、各グループで行いました。解散場所の選定やタイミングは、参加者や野鳥の出現状況に合わせて行えるため、丁度良いタイミングで終了させることができました。鳥合わせの後、お試し入会の説明を行うのですが、その場で、お試し入会の申込書を参加者に渡しながら説明するため、お試し入会の広報も丁寧に説明することができました。

探鳥会終了後のふりかえりでは、「公園施設のため、拡声器も使えない条件で、大人数に話をしても聞こえない人もいる。最初からグループに分かれても良いのでは？」「これ以上参加者が増えると対応しきれないので、リーダーではない会員にも、グループの誘導や望遠鏡の設置等、できることをお願いしてはどうか？」等の意見が出ました。また、「他の支部では、お試し入会の広報は最初と最後の2回行っているところもあると聞いた。よりよいお試し入会への勧誘方法を共有してはどうか」等、の意見が出ました。

100 名を超える参加がある探鳥会は多くないと思いますが、大人数を相手にする探鳥会のノウハウをリーダーズフォーラムの場で共有できればと思いました。

■参加者の声

50 代女性：バードウォッチングに興味はあったのですが、今回思い切って参加してみました。とても面白くてはまりそうです！

70 代女性：駅から近い場所だと参加しやすくて良いです。

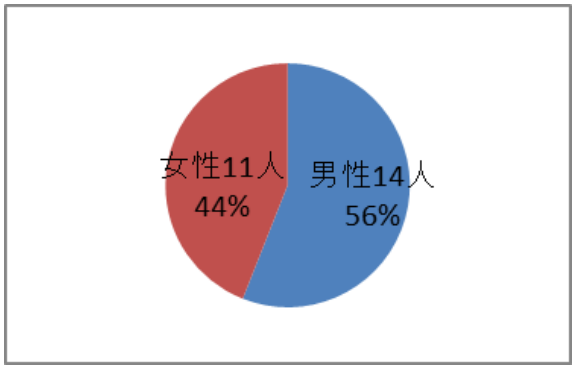
30 代女性：タウン誌でイベントを知り、小学生の息子と友達の親子を誘って参加しました。鳥がとても可愛くて感激しました。

（普及室／瀬古智貫）

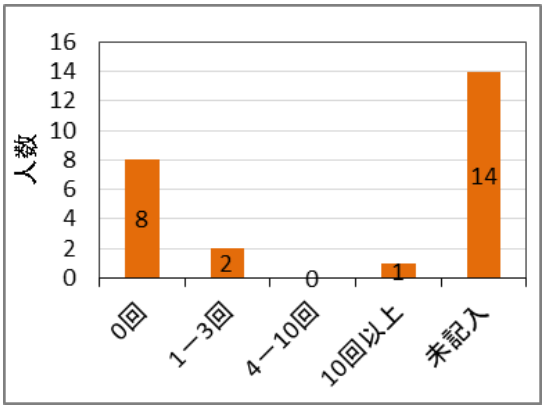
黒磯・鳥野目ビギナー探鳥会　（栃木）

【日時】2016 年 12 月 3 日（日）9 時 00 分～11 時 30 分
【天候】晴れ
【場所】鳥野目河川公園（栃木県那須塩原市）
【参加人数】25 名（うち一般参加者 19 名）
【リーダー】8 名
【お試し入会】1 名（一般参加者のうち約 5%）
【広報】＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook
＜メール＞一斉メール送信（10/3、6 全国 42,325 名に送信）
＜チラシ＞探鳥会のご案内（10/20 から全国約 50,000 名に送付）

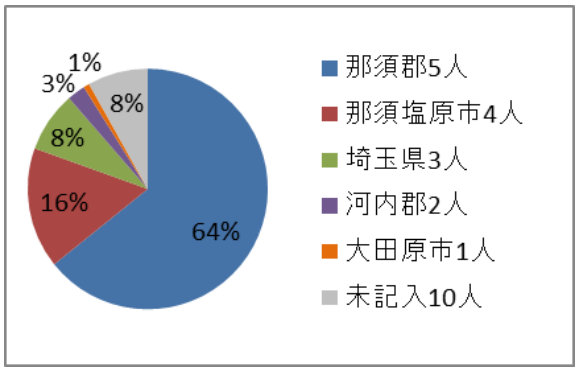
【性別】



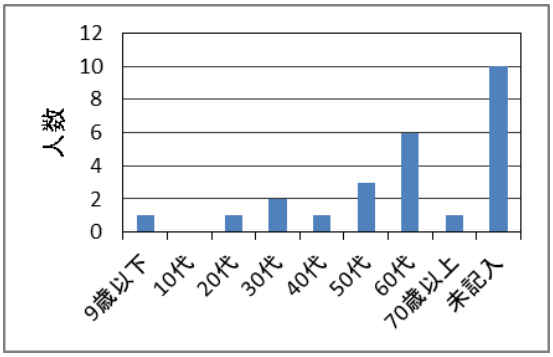
【バードウォッチングの経験回数】



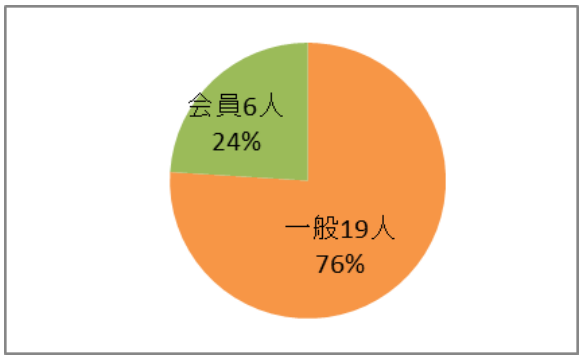
【お住まい】



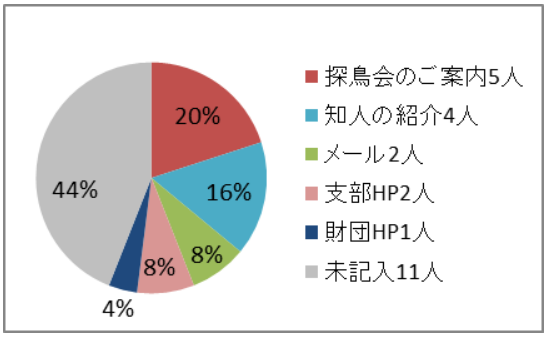
【年齢】



【会員/一般】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

鳥野目河川公園は、栃木県の県北にある公園です。那珂川の右岸に位置し、園内には、オートキャンプ場や大池、林などがあります。

一般の方１９名を含む２５名が集まり、２班に分かれて、林の小鳥と大池の水鳥を観察しました。

■探鳥会の様子

当日は、風もなく良く晴れた探鳥会日和となりました。

集合場所には受付のほかに、貸出用の双眼鏡や販売物が並んでいます。今年から班ごとの案内を試みるそうで、リーダーたちは A4 にまとめられた「ビギナー探鳥会進行の手引き」を見ながら、班行動の確認をしていました。参加者が集まりだすと、受付をし、手の空いているリーダーが双眼鏡の使い方を説明しました。

９時を過ぎると全体での挨拶があり、２班に分かれての行動になりました。私の加わったグループでは、一般参加者８名をリーダーや会員の方５名が案内しました。

探鳥会は終始なごやかな雰囲気で進みました。開始してすぐ、上空にトビとカラスが見つかり、皆で大きさの違いに注目しながら観察しました。しばらくするとそこに、チョウゲンボウが飛んできました。

「カラスより小さく、ハトくらいの大きさです。」

とリーダーが説明されると

「ちょうどカラスと比較しやすいですね。チョウゲンボウは肉食ですか？」

と参加者から質問があがります。

「はい。小鳥も食べますよ。」

という答えには、

「小鳥は外敵が多いのですね。」

と感想がもれ、そこから小鳥の寿命の短さなどに話が広がっていました。

▲林での観察の様子

続いて林でモズやシメなどを観察し、10 時 30 分頃からは大池で、カルガモやキンクロハジロなどを観察しました。道中では、リーダーが野鳥の説明だけではなく、

「野鳥を覚えるには探鳥会に参加するのが一番おすすめですよ。」

と探鳥会の魅力もさりげなく伝えていたのが印象的でした。

鳥合わせと入会案内は各班で行われました。説明の後にリーダーが

「どうですか？」

と直接声をかけるとちょうどそのご夫婦が正式入会をしてくださり、もう一班からもお試し入会してくださった方が 1 名いらっしゃいました。

■参加者の声

50 代くらいの女性：いつも主人とこの場所をウォーキングしており、鳥が気になっていました。ちょうど身近な場所で開催されていたので、参加しました。

50 代くらいの女性：仕事場が川に面していて、サギなどをよく見ていました。自分 1 人だと何の種類かまで分かりませんが、詳しい方と一緒だと教えてもらえて良いですね。

■まとめ

反省会では、時間が 30 分程オーバーしてしまったことについて、「開催時間を長くし、もっと鳥を見てもらった方が良いのではないか」という意見と「初めての方には今日でも長すぎたのではないか」という意見があがっていました。

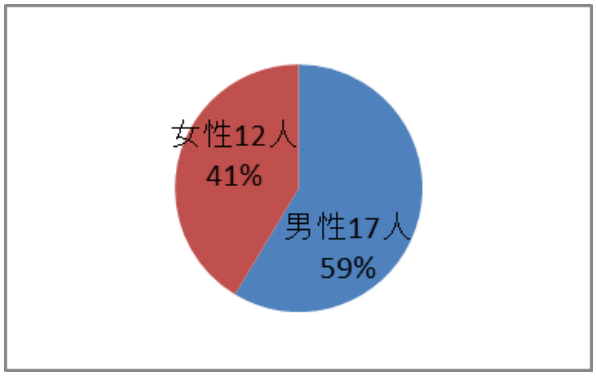
お試し入会は 1 名でしたが、栃木はこの冬 6 回ビギナー探鳥会を予定しているため、何回か参加してから入会を決める参加者も多いのかもしれません。今回から班ごとの案内を試みるなど、新しいことを積極的に取り入れる栃木。次回の開催も楽しみです。

（普及室／堀本理華）

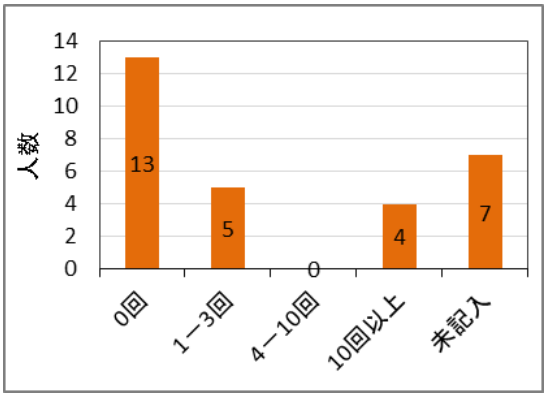
千葉公園ビギナーズ探鳥会　（千葉県）

【日時】2016 年 12 月 3 日（土）10 時 00 分～12 時 00 分
【天候】晴れ
【場所】千葉公園（千葉県千葉市）
【参加人数】29 名（うち一般参加者 24 名）
【リーダー】13 名
【お試し入会】11 名（一般参加者のうち約 46%）
【広報】
　＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook
　＜メール＞一斉メール送信（10/3、6 全国 42,325 名に送信）
　＜チラシ＞探鳥会のご案内（10/20 から全国約 50,000 名に送付）
　＜新聞＞東京新聞千葉版（11/25）、千葉マリオン（11/15 朝日新聞折り込み）、
　　定年時代（11 月号、朝日新聞折り込み）、読売新聞千葉版（12/1）

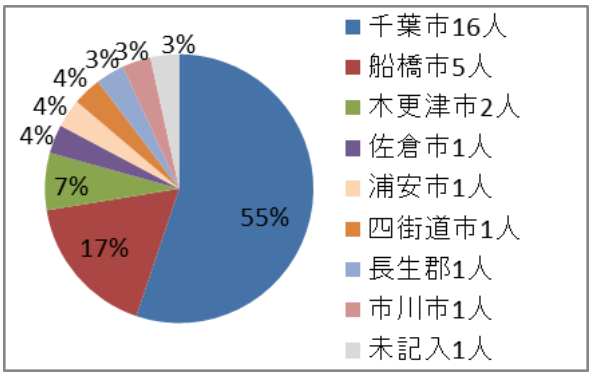
【性別】



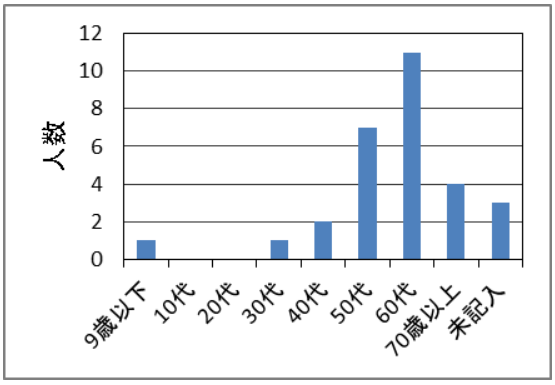
【バードウォッチングの経験回数】



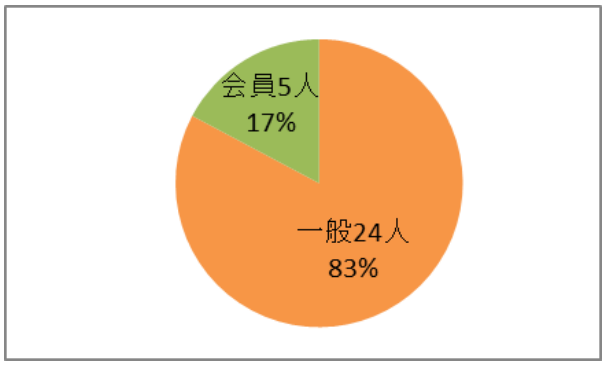
【お住まい】



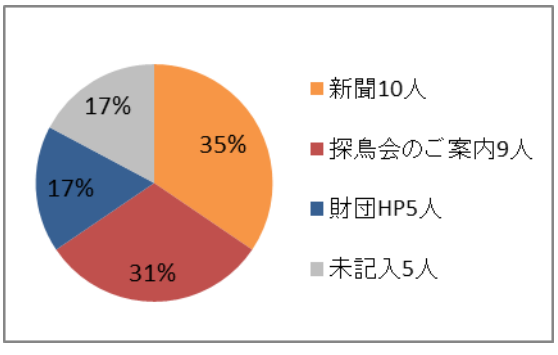
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

千葉公園は、JR 千葉駅から徒歩 10 分程の場所にある総合公園です。16ha ほどの敷地には池や林、プールや運動競技場等さまざまなエリアがありますが、今回の探鳥会では、池と林が主なフィールドでした。日本野鳥の会千葉県では、この公園での定例探鳥会は行っていないそうですが、アクセスがよく、野鳥観察もしやすいため、３年連続で「会員を増やすための探鳥会」を開催しています。参加者は、親子を含む 29 名でした。

■探鳥会の様子

JR 千葉駅で集合・受付、双眼鏡の貸出をした後、リーダーが引率して千葉公園へ徒歩で移動。公園入口の広場で、この探鳥会の説明やお試し入会のよびかけ、双眼鏡の使い方の案内などがありました。その後、園内の池と林で１時間半ほどバードウォッチングを行い、最後に鳥あわせとお試し入会の勧誘、という流れでした。

双眼鏡の説明が終わり、園内を移動しはじめてすぐにカワセミが見つかりました。鳥との距離は 10m 程度と近く、しかも２羽がじっと木の枝にとまっているという好条件。羽や嘴の色など細部まで観察することができました。その後、ホシハジロやキンクロハジロ、アオサギなど比較的動きの少ない野鳥が見られ、しぐさや羽根の色の美しさなどをゆっくりと堪能しました。林では、シジュウカラやハクセキレイなどに加え、よく見える場所にビンズイがいたため、参加者みなで観察ができました。身近にいるけれど初めて見る野鳥たちとの出会いに、多くの方が興味を持っている様子がよく分かりました。

▲子どもから大人まで、参加者の様子

参加者２・３名に対してリーダーが１名という体制のため、参加者とリーダーが気軽に話ができていて、全体を通してとてもよい雰囲気でした。途中、トイレ休憩をはさんだのも、参加者が安心できる気配りと思いました。

鳥あわせは、この日のために特別に編集された野鳥リストに沿って行われました。リストの掲載種数は、見られる可能性の高い種に絞られ、初心者にも使いやすい配慮がされていました。また、チェック欄が３ヶ所もうけられていて、今回の探鳥会のほかに、あと２回分、チェックができるようになっています。次の観察につながるユニークなしかけです。

最後に、再度お試し入会の案内がありました。そこでは、日本野鳥の会千葉県は探鳥会だけでなく野鳥の生息地保全にも取り組む団体であることや、入会の方法や特典などをよく通る声で丁寧に説明されていました。説明が終わるとすぐに、最前列の参加者が
「入会します」
と前に進み出てこられ、その後次々と入会希望者が集まってくる、という状況になり、会員以外の参加者の約半分がお試し入会されるという結果になりました。

■参加者の声

50 代女性：自宅の庭に来る野鳥の名前を知りたくて参加しました。今日参加して、ジョウビタキということが分かりました。

60 代女性：このような街中の公園で、こんなにさまざまな野鳥が見られるとは知りませんでした。

■まとめ

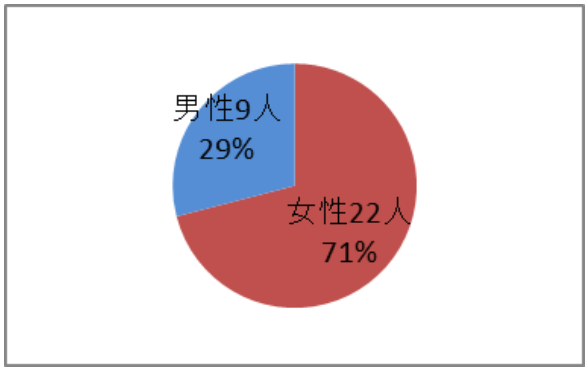
リーダーの皆さんの丁寧な解説、目の前にいる野鳥をじっくり観察する姿勢に加え、約１時間半で 20 種程度の野鳥を観察するという、ゆったりとしたペースも、初めての方が楽しく参加できた要因と感じました。また、お試し入会の説明では、支部が自然保護活動にも関わっていることに言及し、支部会員になることの意義を参加者に伝えていました。よい雰囲気のバードウォッチングと効果的な勧誘が、高いお試し入会率につながったのではないかと思います。

（普及室／江面康子）

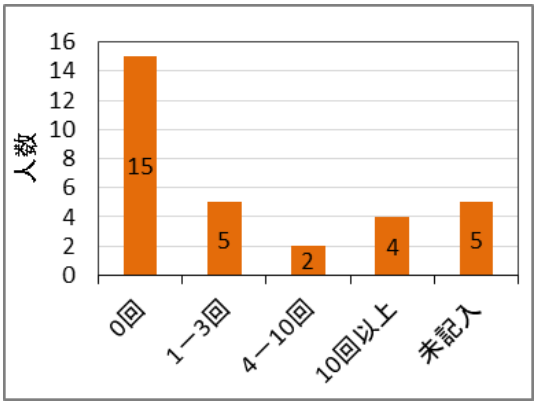
柏の葉公園ビギナーズ探鳥会　（千葉県）

【日時】2016 年 12 月 10 日（土）9 時 00 分～11 時 30 分
【天候】晴れ
【場所】千葉県立柏の葉公園（千葉県柏市）
【参加人数】31 名（うち一般参加者 22 名）
【リーダー】8 名
【お試し入会】3 名（一般参加者のうち 14%）
【広報】
　＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook
　＜メール＞一斉メール送信（10/3、6 全国 42,325 名に送信）
　＜チラシ＞探鳥会のご案内（10/20 から全国約 50,000 名に送付）

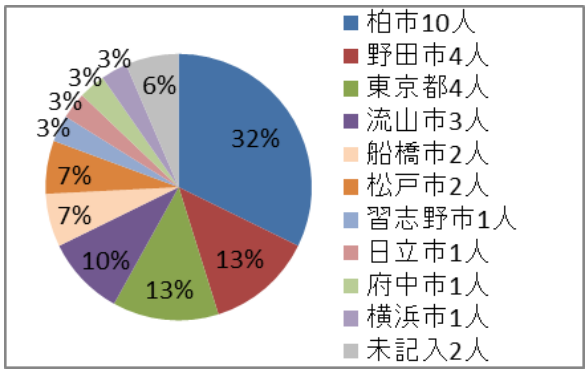
【性別】



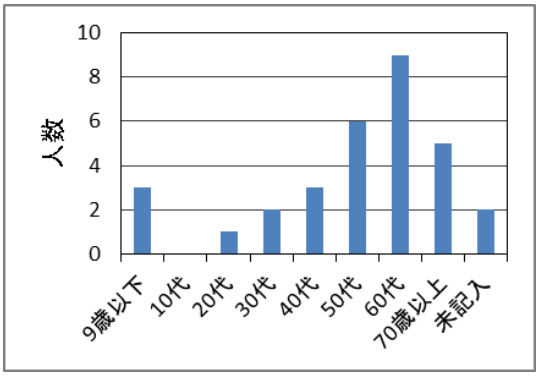
【バードウォッチングの経験回数】



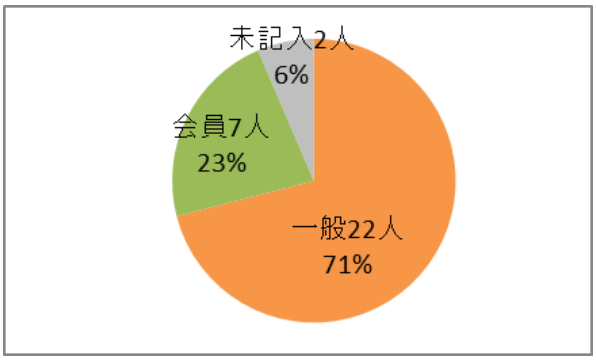
【お住まい】



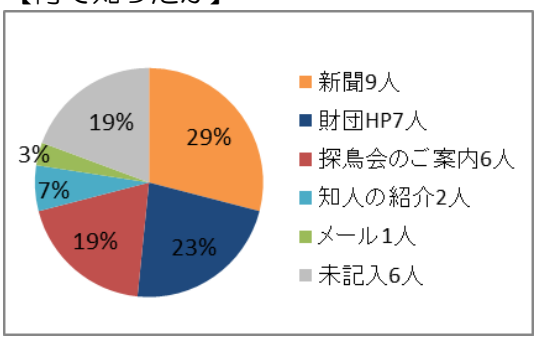
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

千葉県立柏の葉公園は、東葛飾地域のほぼ中央部に位置し、地域の「緑・スポーツ・文化」の拠点として整備が進められている公園です。45ha の広大な敷地に芝生広場、多種類の樹木林、花壇など豊かな自然が楽しめるほか、総合競技場やコミュニティ体育館、野球場、庭球場などのスポーツ施設、更には日本庭園をはじめとする文化施設があり、子どもからお年寄りまで幅広い年齢の方々の憩いの場となっています。探鳥会は公園内の林と池の周りをゆっくりと回るコースでした。

■探鳥会の様子

当日はよく晴れてはいるものの、風が強く、実際の気温よりも寒く感じるお天気でした。集合場所の柏の葉キャンパス駅に参加者が集合し、受付と双眼鏡の貸し出しをおこなった後、野鳥を見ながら柏の葉公園に移動しました。

公園入口で挨拶とコース説明、見られるであろう野鳥の紙芝居を使った説明がありました。鳥の名前と特徴などを簡潔に紹介した後、2 班に分かれて歩き始めました。小さなお子さんが 3 人いたのでスコープ 1 台は子供用に低いものを用意し、鳥がいるとすぐに設置して観察できるようにしていました。

▲はじめの説明の様子

狭い場所での観察では参加者に場所を代わってもらいながら交代でスコープを覗きました。先頭にいる人だけでなく参加者全員がしっかり見られるように工夫していました。

初めて双眼鏡をのぞいて鳥を見たときの、「わぁ！すごい！見えた！」
という素直な感動、喜びの声が多く聞かれたのが印象的でした。

まとめの時間はあえて鳥あわせはせず、印象に残った鳥の名前を参加者の方にあげていただくことで、楽しい時間を振り返りました。参加者全員に野鳥の写真のプレゼントがあり、探鳥会の余韻を楽しみながらお試し会員のお誘いをして探鳥会を締めくくりました。

▲「おさんぽ鳥図鑑」で鳥を調べる参加者も

■参加者の声

30 代女性（3 歳の娘と参加）：この公園は娘とよく来るのですが、アスレチックしか行ったことがなく、こちら側は初めてです。鳴き声でわかる鳥もいるのですね。ヒヨドリ、覚えました！

20 代男性：動物の漫画を読んでいるうちに野鳥に興味をもって、参加しました。意識してみているとこんなに野鳥がいるんだと驚きました。

50 代女性：初めてで一人で参加だったので不安でしたし緊張していたのですが、とても楽しめました。見たかったカワセミが見られてすごく嬉しかったです。お友達もできて、詳しい方にいろいろと教えていただけますし、運動にもなるのも良いですね。

■まとめ

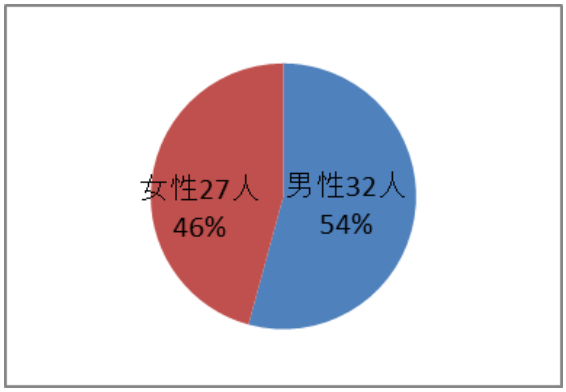
双眼鏡で鳥を見るのに苦戦している方にはリーダーのサポートで参加していた支部会員の方々が丁寧に対応するなど、リーダーだけでなく、支部会員の皆さんの丁寧な対応が印象的な探鳥会でした。手持ち無沙汰にしている参加者が 1 人もおらず、非常に参加者満足度の高い探鳥会だったと思いました。探鳥会を参加者全員に楽しいでほしい。そんな支部の方々の気持ちが伝わってくるような探鳥会でした。

（普及室／植月智子）

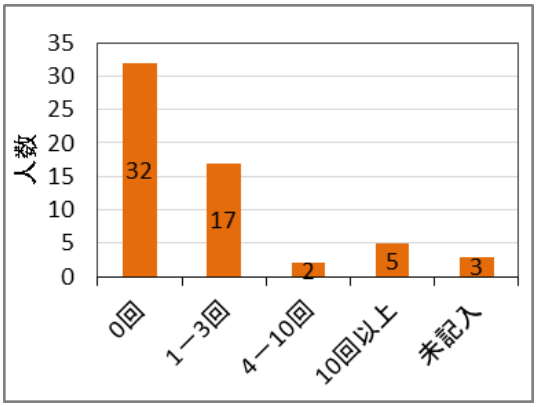
はじめてみませんか？バードウォッチング in 大宮公園　（埼玉）

【日時】2016 年 12 月 11 日（日）10 時 00 分～11 時 30 分
【天候】晴れ
【場所】大宮公園（埼玉県さいたま市）
【参加人数】59 名（うち一般参加者 51 名）
【リーダー】16 名
【お試し入会】20 名（一般参加者のうち約 39%）
【広報】
　＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook
　＜メール＞一斉メール送信（10/3、6 全国 42,325 名に送信）
　＜チラシ＞探鳥会のご案内（10/20 から全国約 50,000 名に送付）

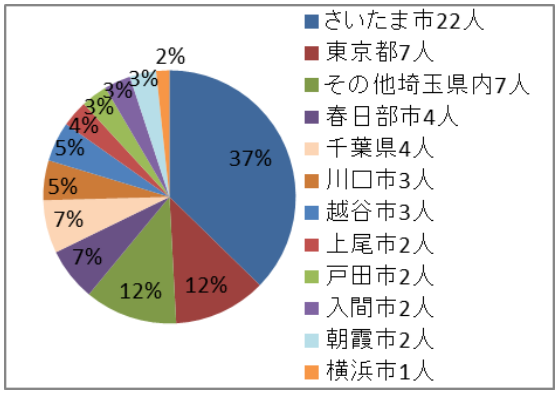
【性別】



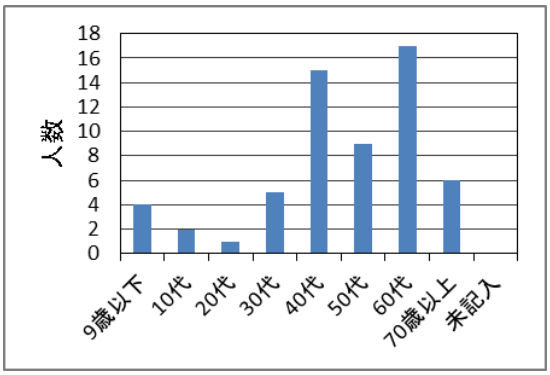
【バードウォッチングの経験回数】



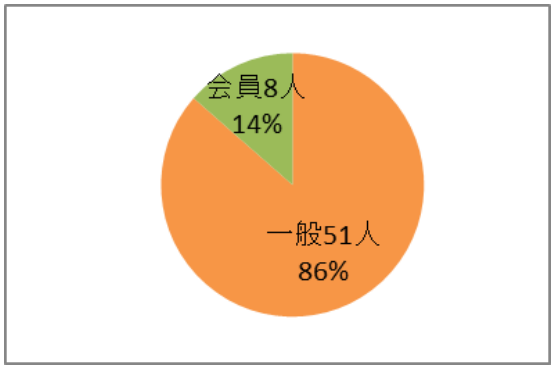
【お住まい】



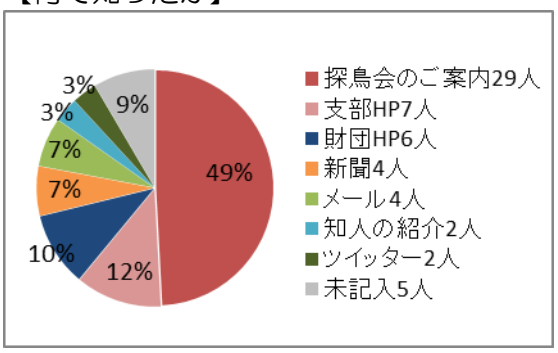
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会の様子

埼玉の「会員を増やすための探鳥会」は、今年で３回目。過去２回は、場所の選択や広報上の手違いなどもあり、集客がうまくいっていませんでした。（昨年 16 名、一昨年 13 名）

しかし、今回は場所も埼玉県民なら誰でも知っているなじみの場所だし、広報も「探鳥会のご案内」への掲載と一斉メール送信により十分行われています。開始前から「今年こそは」という意気込みで臨んだ探鳥会でした。

当日は、集合場所である大宮公園の駅前広場には、開始 20 分くらい前からパラパラと人が集まりはじめました。気が付くとその数は 50 人を超え、開始時間直前になるとさらに人数が増え、集合場所には人があふれはじめました。そこで急きょ参加者に声をかけ、公園の入り口へ移動することにしました。５分くらい歩き公園の入り口にたどり着くと、そこではすでに別のスタッフがテーブルに貸し出し用の双眼鏡を広げて待っていました。

すぐに双眼鏡の貸し出しと、使い方の説明です。各地の探鳥会でも双眼鏡の説明は行われますが、そこで見かけるのは左右の視度調整の説明です。ところが初めて双眼鏡を手にした方に、視度調整の説明をしてもほとんどの場合うまく伝わりません。皮肉なことに説明が丁寧であればあるほど面倒になり、それで興味がそがれてしまうケースが多いようです。

埼玉のリーダーの皆さんは、そこのところを心得ていて、視度調整の説明は行わず、双眼鏡の幅の調整と見たいものを視野に入れるコツ、そしてピントの合わせ方にとどめていました。裸眼で左右の視力の違う方に対してだけ、個別に視度調整をおこなっていました。些細なことですがこれも初心者の対応としては重要なことだと思いました。

双眼鏡のことが一段落した後、いよいよ探鳥会が始まります。開会のあいさつとリーダーの紹介の後、今回は初心者を対象とした探鳥会であること、気軽に何でも話しかけてほしいということ、そして今回限定でお試し入会ができることなどを伝えた後、59 名の参加者を４班に班分けし、1 班につき 2 人のリーダーがつきました。

まずは池の手前を泳いでいるオナガガモ、キンクロハジロを間近かでじっくりと観察します。双眼鏡で鳥を見るということに慣れていただこうという意図でしょうか。これなら初めての方でも双眼鏡を使って鳥を見ることを楽しめます。種類によって違うカラーリングや羽が水をはじいている様子、目の色や瞼を開閉する様子、そして水中で水をかいている様子などが臨場感を持って伝わってきます。

また、この日は幸運なことに７～８メートル先の池のほとりの樹の枝にゴイサギが止まっており、双眼鏡を使わずに重量感のある鳥を間近で観察することができました。

やがて、コースは池から林の環境になり、シジュウカラやメジロ、ツグミなどの小鳥の観察へと移行していきました。先ほどと違って今度は少し双眼鏡の扱いに難しさが加わってきますが、そのころには参加者は自分で野鳥を探し、双眼鏡で観察することができるようになってきています。終了間際では、リーダーが逐一声をかけなくても、鳥の姿を自分で見付け、双眼鏡で観察するというバードウォッチングの醍醐味を味わっていました。

約 1 時間強かけて、池を 1 周してスタート地点に戻って来たところで、鳥合わせとお試し入会のお誘いです。この日見られた野鳥は２３種。初心者の方には多すぎず適度な数でした。そして 1 人のリーダーで７～８名の参加者を対応したため、すべての参加者に声が行き届いていた印象でした。そのかいあってか、この日は非会員 51 名中 20 名の方がお試し入会に申し込んでくださいました。

▲林での観察

■参加者の声

40 代男性：若いころ、栃木の会員で渡良瀬遊水地をフィールドに鳥を見ていましたが、忙しくなって会も退会し探鳥会も途切れていました。今日は、メールで案内をもらい、娘と一緒に参加してみました。久しぶりでとても楽しかったです。

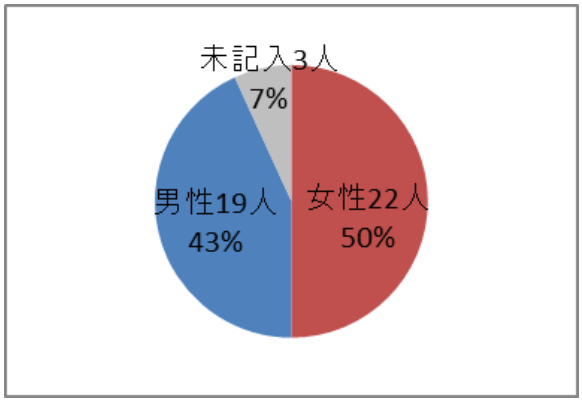
30 代女性：以前会員で探鳥会にもよく参加していました。今日は久しぶりに子供と一緒に参加して鳥を見ることができて楽しかったです。また参加します。

（普及室／箱田敦只）

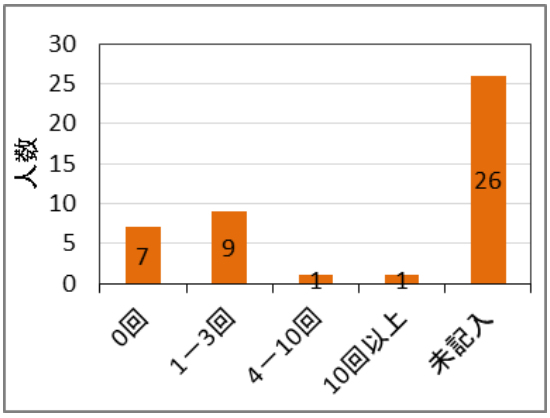
宇都宮・中央公園ビギナー探鳥会　（栃木）

【日時】2016 年 12 月 17 日（土）９時 00 分～11 時 30 分
【天候】晴れ
【場所】栃木県中央公園（栃木県宇都宮市）
【参加人数】44 名（うち一般参加者 38 名）
【リーダー】７名
【お試し入会】０名
【広報】
　＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook
　＜メール＞一斉メール送信（10/3、６全国 42,325 名に送信）
　＜チラシ＞探鳥会のご案内（10/20 から全国約 50,000 名に送付）

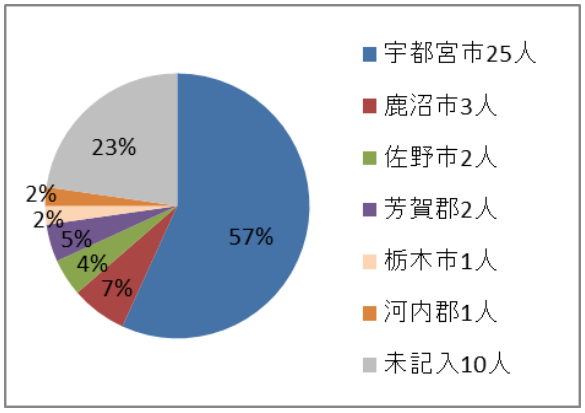
【性別】



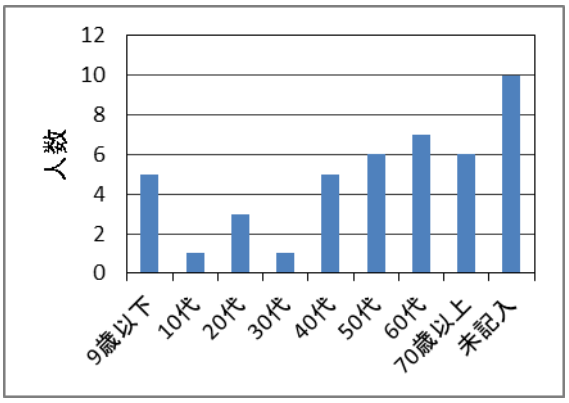
【バードウォッチングの経験回数】



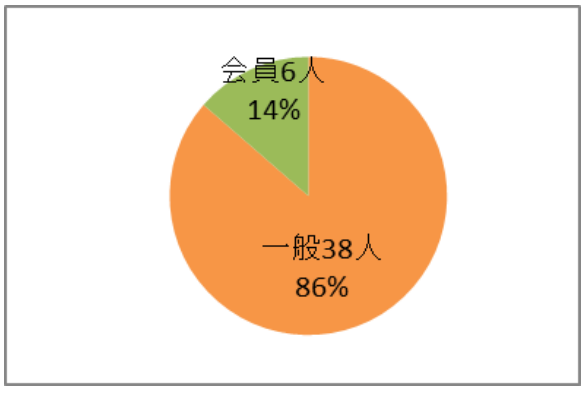
【お住まい】



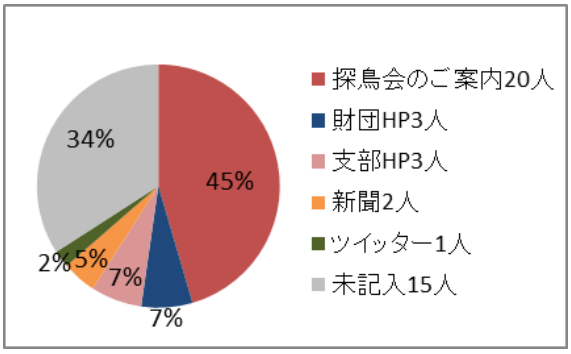
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

栃木県中央公園は、JR 宇都宮駅から西へ４ｋｍに位置する公園。JR 宇都宮駅と東武宇都宮駅からバスでアクセスが可能です。博物館が隣接し、和洋折衷の庭園や大きな池があり、ウォーキングやジョギングをする方で賑わっています。日本野鳥の会栃木が 2016 年度に予定している「ビギナー探鳥会」は６回。その２回目となりました。前回は当日参加 OK でしたが、参加者人数が 95 名となり、コントロールが難しくなってしまった反省を受け、事前申込制にしました。

■探鳥会の様子

朝の気温が氷点下にも関わらず、44 名の方にご参加頂きました。

受付終了後、双眼鏡の貸し出しを済ませ、日本野鳥の会栃木の活動について説明後、３つのグループに分けることを案内。リーダー３名が前に立ち、参加者が好きなグループの前に分かれるよう案内をしました。参加者同士、お互いを見ながらスムーズにグループ分けが出来ました。各グループのリーダーは２名から３名です。

各グループでリーダーの自己紹介や諸注意、今回のコースについて簡単な案内があり、それぞれのグループが違うルートで観察をスタートしました。

私が参加したグループはご夫婦、ご友人同士、親子でご参加の計 13 名。大池へ向かい、池を時計回りに観察するルートでした。集合場所から出てすぐ、大きな木の枝でハシブトガラスが２羽、羽づくろいをしていました。参加者の皆が興味津々。

「こんなにじっくりカラスを見ることないわね！」

と口々に言い、リーダーの方が身近な野鳥を観察する大切さを伝えていたのが印象的でした。

大池近くの橋でカワセミが長いこと木の枝に止まり、獲物を待っていました。カワセミを初めて見る方も多く、色の美しさに声を上げていました。陽の当たり方でその羽の色が変わることに気付かれ、様々な角度から観察されていました。その後、大池をぐるりと一周しカルガモ、カイツブリ、池の外側の林の中ではヒヨドリ、シュジュウカラ、コゲラ、ジョウビタキなど観察し、ゆっくりしたペースで歩きました。

参加者の皆さんは鳴き声によく反応される方が多く

「この鳴き声はなんですか？」

と言う質問が目立ちました。目で観る以外の感覚も積極的に使われていたように感じました。

終了時刻の 10 分ほど前に集合場所に戻り、鳥合わせを各グループで行いました。その後、日本野鳥の会の活動や、お試し入会、物販の紹介があり、２名が本入会をしました。最後に鳥インフルエンザへの配慮のお願いと共に靴裏の消毒についてご理解を頂き、終了となりました。

▲池のほとりでの観察の様子

■参加者の声

50 代女性：日光で外国人の方が野鳥観察をしたいと言う要望が多い。自分は特に野鳥についてよく知らないので参加してみました。

60 代女性：日本野鳥の会のオンラインショッピングでバードウォッチングのスターターキットを買いました。今日、初めて双眼鏡を覗きます。

10 代男性：（親子で参加）前回の探鳥会に参加した。楽しかったのでまた来ました。

■まとめ

宇都宮市外から参加されている方も多く、理由として、次回の開催日や場所を告知し、日程の書かれた案内等をお渡ししたりアナウンスする事でリピーターを掴んでいると感じました。また、公園と言う身近な場所で、野鳥の意外な一面を知ることができる機会になり、これから野鳥観察を始めたい方へのきっかけとなる探鳥会だったと思います。

（普及室／関祥子）

◆私たちの探鳥会自慢

昨年 10 月の中部ブロック会議で報告された「変わり種探鳥会」から、日本野鳥の会富山が開催している「呉羽山 ゴミ取り（鳥）探鳥会」を紹介します。

「呉羽山 ゴミ取り（鳥）探鳥会」（日本野鳥の会富山）

■背景

呉羽丘陵は富山平野のほぼ中央に位置し、日本海側の鳥類の渡りのコースになっています。日本野鳥の会富山では、1995 年から、毎月第 4 日曜日の午前 9 時～11 時に定例探鳥会を開催しています。

この場所は、名所・旧跡が多く、また桜並木もあり、市民の憩いの場所となっていますが、探鳥会を始めた当初、空き缶や空きビン、弁当の空箱などが散乱していました。そこで、日頃、探鳥会でお世話になっているコースの清掃をすることで、野鳥に良い環境にしたいという話が出てきました。

2001 年から 4 月と 8 月の探鳥会でごみ拾いを始めました。2002 年にも 4 月と 8 月に実施し、2003 年からは 8 月に実施しています。

■ゴミ取り（鳥）探鳥会の様子

ゴミ取り（鳥）探鳥会のときは、双眼鏡に加えて、軍手・ゴミ袋持参で集合してもらい、いつもの探鳥コースを探鳥とゴミ拾いしながら歩きます。

▲ゴミ拾いの様子

例年楽しみにしており、探鳥よりゴミ拾いに熱中する参加者も出てきました。
「きれいにするって気持ちがいいね。鳥たちも喜んでいるかね。」
との会話も聞かれます。

■今後について

当初は、９０リットルゴミ袋を５個も回収する多さでしたが、同時期に、地区の観光協会や商工会も粗大ゴミを中心に除去し始めました。

目に見えてきれいになりましたが、まだまだ、タバコの吸い殻やキャンディーの包み紙など細かいものがあります。今後も自然環境の維持を続けていきたいです。

▲実施後の集合写真（2016 年 8 月 28 日）

（日本野鳥の会富山／藤島光俊）

見て楽しむだけでなく、環境を良くすることに貢献する「ゴミ拾い探鳥会」。全国の支部でも開催しているところは多いのではないでしょうか？

ゴミ拾いに限らず、探鳥地を良くする活動とセットで行なわれている探鳥会がありましたら、情報をお待ちしています。
（tancho-staff@wbsj.org）

◆探鳥会保険集計結果（2016 年 11 月分）

11 月は 69 支部からご報告をいただき、計 257 回の探鳥会が開催され、のべ 6,237 人が参加されました。

表 2. 11 月の探鳥会保険集計結果（2016 年 12 月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
小清水	−	−	−	−	−
オホーツク支部	1	16	2	1	19
根室支部	−	−	−	−	−
釧路支部	2	11	20	7	38
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	1	7	1	1	9
道北支部	0	0	0	0	0
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	1	30	8	3	41
小樽支部	2	7	2	2	11
苫小牧支部	−	−	−	−	−
室蘭支部	1	11	1	3	15
函館支部	0	0	0	0	0
道南桧山	2	14	19	5	38
青森県支部	−	−	−	−	−
弘前支部	2	19	1	2	22
秋田県支部	3	32	16	5	53
山形県支部	5	25	14	7	46
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	1	20	13	4	37
北上支部	3	30	12	4	46
宮城県支部	5	70	67	15	152
ふくしま	1	26	1	2	29
郡山支部	2	38	0	6	44
二本松	−	−	−	−	−
白河支部	2	1	0	8	9
会津支部	1	6	1	2	9
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	1	20	0	1	21
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	−	−	−	−	−
茨城県	9	88	51	18	157
栃木	−	−	−	−	−
群馬	6	63	30	21	114
吾妻	2	22	0	2	24
埼玉	12	343	81	81	505
千葉県	9	127	36	34	197
東京	12	446	17	62	525
奥多摩支部	13	167	66	47	280
神奈川支部	11	240	58	39	337
新潟県	1	42	15	3	60
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	2	30	7	2	39
石川	4	41	30	12	83
福井県	2	25	26	9	60
長野支部	3	30	2	5	37
軽井沢支部	1	5	0	1	6
諏訪支部	1	6	11	2	19
木曽支部	-	-	-	-	-
伊那谷支部	1	6	1	2	9
甲府支部	2	51	5	4	60
富士山麓支部	1	4	6	2	12
東富士	-	-	-	-	-
沼津支部	1	14	0	2	16
南富士支部	3	93	29	4	126
南伊豆	1	9	0	2	11
静岡支部	3	30	1	5	36
遠江	3	49	10	11	70
愛知県支部	14	192	117	40	349
岐阜	-	-	-	-	-
三重	2	28	3	3	34
奈良支部	4	126	37	8	171
和歌山県支部	1	4	6	1	11
滋賀	5	48	27	14	89
京都支部	7	128	37	19	184
大阪支部	20	365	91	88	544
ひょうご	6	120	80	18	218
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	3	14	18	3	35
島根県支部	2	16	1	2	19
岡山県支部	4	89	33	15	137
広島県支部	3	36	21	9	66
山口県支部	3	32	9	3	44
香川県支部	2	85	14	3	102
徳島県支部	6	64	16	6	86
高知支部	0	0	0	0	0
愛媛	5	75	64	8	147
北九州	-	-	-	-	-
福岡支部	7	107	18	15	140
筑豊支部	3	43	6	3	52
筑後支部	7	44	39	9	92
佐賀県支部	1	15	5	2	22
長崎県支部	-	-	-	-	-
熊本県支部	5	86	20	6	112
大分県支部	3	23	11	4	38
宮崎県支部	3	30	24	3	57
鹿児島	2	39	20	7	66
やんばる支部	-	-	-	-	-
石垣島支部	-	-	-	-	-
西表支部	-	-	-	-	-
全国	257	4,123	1,377	737	6,237

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■2017 年バードウィーク「全国一斉探鳥会」の情報をお寄せください■

今年も、バードウィーク期間の日曜日（2017 年 5 月 14 日）を「全国一斉探鳥会」として広報し、一般の方に野鳥や自然に関心を持っていただく機会にしたいと考えています。

探鳥会スタッフ通信 1 月号に同封し、各支部事務局宛に探鳥会情報のご提供をお願いする書類をお送りしました。

広報を希望する探鳥会がございましたら、2 月 28 日（火）までに、Email または FAX、郵送で財団普及室までお知らせください。

とりまとめた探鳥会の情報は、ホームページやパンフレット「探鳥会のご案内」、メール送信等で広報し、特に一般の方に参加を呼びかけます。（野鳥誌 5 月号にも掲載予定です）

ご協力の程よろしくお願いいたします。

【記入例】

開催日	2017 年 5 月 14 日（日）
タイトル	『多摩川からはじめよう！エコライフの一歩』
都道府県	東京都
開催場所	多摩川（聖蹟桜ヶ丘駅～交通公園）
所在	多摩市関戸
交通	新宿から京王線・準特急で約 30 分
野鳥	シジュウカラ、コゲラ、ヒヨドリ、カワセミなど
PR	水辺の鳥、草原の鳥を身近に楽しむことができます。野鳥の子育てシーンを観察できるかもしれません。
主催	日本野鳥の会●●
参加費	200 円 （日本野鳥の会会員は無料）
集合時間・場所	10:00 ／ 京王線聖蹟桜ヶ丘西口
解散時間・場所	13:00 ／ 交通公園
持ち物	筆記用具、雨具、お弁当、あれば双眼鏡・図鑑
備考	（事前申し込みの有無）事前申込み不要 （雨天時について）雨天中止

【送付先】

Email：tancho@wbsj.org

FAX：03-5436-2635

住所：〒141-0031　東京都品川区西五反田 3-9-23　丸和ビル

（公財）日本野鳥の会　普及室　普及教育グループ　堀本または植木宛

【締切】2 月 28 日（火）

■『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み■

◇科学的な知識の普及で大切なことは？

「知られざるを知る、これ知るなり」これは、私が探鳥会リーダー研修会などで講師を頼まれていた頃、よく使っていた格言です。「いかにわかっていないか」がわかると、謙虚になれます。また、わかることの喜び、小さな発見が持つ大きな意味も理解できるようにもなるのではないでしょうか？

公益財団法人日本野鳥の会の定款、第 3 条（目的）では、次のように記されています。「・・・この法人は、自然にあるがままの野鳥に接して楽しむ機会を設け、また野鳥に関する科学的な知識及びその適正な保護思想を普及すると共に自然環境を保全し、国民の間に自然尊重の精神を培い、もって人間性豊かな社会の発展に資することを目的とする。・・・」

ここに記されている科学的な知識の普及において、私が大切だと思うのは、「まだわかっていないことが多く、今も研究は続いている」という認識です。

「増補改訂新版まえがき」（P7）で、私は、近年のさまざまな図鑑の出版や野外識別の向上に触れた後、「一方で、多くのことがわかっているとか、すべて見分けられるような誤解が広まってはいないだろうか？」と書きました。日本鳥類目録改訂第 7 版で分類が変わって混乱している事例を紹介した後には、「少なくとも、分類は固定的なものではなく、今も研究が続いていることは知っておきたい。」と、続けました。

P12 の「種と亜種」では、遺伝的多様性に触れ、個体差、型や変異、交雑もありうるし、種を特定できない個体もいると書きました。また、亜種の研究によっては、今後は別種とされるものがあることにも触れました。その後の「分類や掲載順」「分布図」から、用語の解説、「野鳥の見分け方」に至るまで、よくわかっているわけではないこと、変化もすることなどに配慮した記載を心がけたつもりです。

◇マヒワはマヒワ属ではない？

日本鳥学会誌に、「スズメ目 15 科を対象とした日本鳥類目録改訂第 7 版の学名と分類の検証―第 6 版および IOC リストとの相違―」が掲載されました（浅井ら.2016）。20 ページを越える論文なので短くして紹介することはできませんが、その摘要から抜粋して、補足的な解説をしてみましょう。

「・・・・日本鳥類目録改訂第 7 版で採用された学名と分類について、スズメ目 15 科に含まれる 154 タクサを対象に、第 6 版と世界鳥類リスト（IOC リスト）との相違点に注目して最新の分子系統学の観点から検証した（引用ここまで）・・・」

「タクサ」は分類群とも訳され、ある分類階級に位置づけられる生物の集合のことです。分類階級は目・科・属・種などさまざまですが、ここで取り上げられた 15 科は 90 種に満たないので、ここでのタクサは種以下と解釈できます。なお、日本鳥類目録改訂第 7 版（以後第 7 版と記す）ではスズメ目は 37 科とされており、15 科はその中から任意で取り上げたそうです（馴染み深い科をあげておくとカラス科、シジュウカラ科、メジロ科、スズメ科、アトリ科、ホオジロ科など）。また、IOC リストは、新版では Ver.4.3 を参考にしましたが、ここでは Ver.5.3（2015 年）が用いられています。

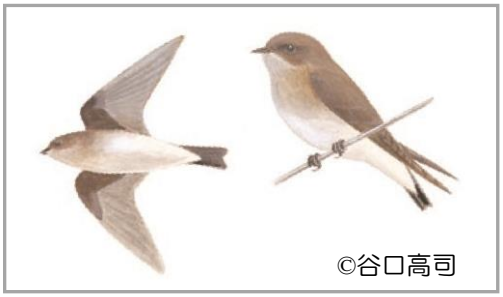
検証の結果は

「・・・第 6 版と相違があったのは 50 タクサであり、IOC リストと相違があったのは 25 タクサであった。第 7 版は概ね分子系統学的研究を反映しているとみなせたが、マヒワ、ベニヒワ、コベニヒワ、ハシボソガラス、カササギについては分子系統学的研究の結果を反映しているとは言えなかった。（引用ここまで）・・・」

例えば、第 7 版のマヒワの属名は *Carduelis* ですが、ミトコンドリア DNA のチトクローム *b* 領域を用いた分子系統学的研究によると *Carduelis* は単系統とはならなかったことから、マヒワを含む系統を *Spinus* とする提唱がなされているそうです。IOC リストが *Spinus* を採用しているように、ベニヒワ、コベニヒワとともに属名を *Spinus* とすべき、と書かれています。また、ハシボソガラスの亜種境界、カササギとその近縁種間の分類には疑問や再検討の余地あり、としています。さらに、ヤマガラ、ベニマシコ、オガサワラマシコについては、第 7 版出版後の研究によって、別の属としての学名が提唱されていること、ヤマガラについては 2 つの亜種が種として扱われる可能性などについても書かれています。

研究の一例、その一端を紹介させていただきましたが、野鳥の科学的な知識の普及は、簡単なこととは言えないでしょう。最新の知見を伝えようとしても、専門的な知識がないと理解されにくいこともあるでしょうし、伝える対象や伝え方によっては混乱を招くことにもなりか

ねません。図鑑の場合は、さまざまな研究をどう解釈し、いつの時点で何を採用し、どこまでをどう表せばよいのか？などは、著者によります。図鑑によって違うことが書かれているのは、時代や研究のさまざまだけでなく、著者の考え方、資質や力量が違うからです。



▲新版で谷口高司さんに直していただいた図版の例、今回は増補改訂版で追記したタイワンショウドウツバメです。
ショウドウツバメともども飛んでいると黒っぽく見えますが、増補改訂版の図版では足りなかった茶色味を加えてもらいました。

◇高野伸二の功績とは？

研究は続いているという観点からすると、日本鳥学会による日本鳥類目録の編纂は、わかろうとする努力、わかったとされることを共有する手立てとも言えます。1982 年に『フィールドガイド日本の野鳥』を著した故高野伸二は、第 5 版（1974 年）、および補遺（1975 年、1978 年）に掲載された 525 種を元にしていましたが、高野自身がその目録にも貢献していたことはご存知でしょうか？

「高野さんがいなかったら第 5 版はまとめられなかった」というような話を耳にしたこともありますが、ここでは、野鳥誌 1984 年 12 月号の高野追悼記事から、黒田長久による、「10 月 18 日の葬儀の弔辞より」として記されたものから抜粋させていただきます。黒田さんもすでに故人ですが、日本鳥学会会頭、山階鳥類研究所副所長、当会副会長であられた頃で、高野の幅広い功績に触れています。

「・・・君は鳥の取り持つ理想の伴侶を得られ、日本野鳥の会、日本鳥類保護連盟、そして日本鳥学会のため、困難な時期に会の運営、愛鳥指導、学術的貢献をされ、学会の日本鳥類目録編纂には分布委員長をつとめ、また鳥の野外識別の蘊蓄による日本鳥類の識別ガイドは書棚で世界の名著に肩を並べ、各国で賞賛を浴びましたが、それは自筆でそれぞれの鳥の特徴を適切、親切に描かれているからであります。残念なことにこの膨大なライフワークは頑強な君の体にも勝る大仕事であったと思います。・・・中略・・・しかし、直接、間接に育てられた後継者がかくも多数参集し、君の霊を慰め、そして励みとしていくでしょう。・・・後略・・・」

※引用文献
浅井茂樹・岩見恭子・斉藤安行・亀谷辰朗（2016） スズメ目 15 科を対象とした日本鳥類目録改訂第７版の学名と分類の検証―第６版および IOC リストとの相違―日本鳥学会誌 vol.65,No.2:105-128

（普及室／安西英明）

◆今月の購読者

探鳥会スタッフ通信１月号の電子メール版の購読者数は、先月より２名増えて849名です。支部ごとの購読者数は以下の通りです。

表３．探鳥会スタッフ通信１月号電子メール版の購読者数（2016年１月16日現在）

支部	購読者数	支部	購読者数
小清水	1	福井県	10
オホーツク支部	6	長野支部	2
根室支部	0	軽井沢支部	2
釧路支部	2	諏訪支部	5
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	70	木曽支部	1
旭川支部	4	伊那谷支部	1
滝川支部	1	甲府支部	4
道北支部	1	富士山麓支部	0
江別支部	0	東富士	0
札幌支部	4	沼津支部	3
小樽支部	3	南富士支部	2
苫小牧支部	2	南伊豆	2
室蘭支部	5	静岡支部	2
函館支部	0	遠江	12
道南桧山	2	愛知県支部	33
青森県支部	1	岐阜	5
弘前支部	4	三重	19
秋田県支部	3	奈良支部	3
山形県支部	5	和歌山県支部	5
宮古支部	1	滋賀	19
もりおか	5	京都支部	31
北上支部	2	大阪支部	26
宮城県支部	39	ひょうご	18
ふくしま	4	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	11
郡山支部	1	島根県支部	10
二本松	1	岡山県支部	23
白河支部	2	広島県支部	8
会津支部	2	山口県支部	4
奥会津連合	0	香川県支部	6
いわき支部	1	徳島県支部	6
福島県相双支部	0	高知支部	1
南相馬	0	愛媛	13
茨城県	21	北九州	12
栃木	45	福岡支部	11
群馬	25	筑豊支部	21
吾妻	1	筑後支部	6
埼玉	39	佐賀県支部	5
千葉県	18	長崎県支部	1
東京	56	熊本県支部	14
奥多摩支部	47	大分県支部	3
神奈川支部	20	宮崎県支部	4
新潟県	2	鹿児島	3
佐渡支部	1	やんばる支部	0
富山	3	石垣島支部	1
石川	29	西表支部	2
		合計	849

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の無料配信について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも受信できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

お正月はゆっくり過ごされたでしょうか？

元旦から探鳥会を開催されている支部もあったようで、まさにトリ年な一年の始まりだった事と思います。

今月末には「リーダーズフォーラム東日本」が開催されます。今年も支部の皆さまとの濃い交流を通じてより良い探鳥会が開催されることを願います。

本年もどうぞ宜しくお願い致します。

（普及室／植木陽子）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信　第46号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2017年1月18日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田3-9-23丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org